

# 2019 年度 センター試験 地学（本試験） 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：30 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	● 変化なし    ○ やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p><b>総評</b>                  問題構成数と解答数は例年通り。第3問と第5問において会話文を用いた出題があったが、基本的な内容を問う問題であり、難易度変化に影響を与えることはなかった。また図やグラフの読み取りを必要とする問題が増え、問題のページ数は 27 頁と 4 頁増加したが、解答数に変化はなかったため分量変化なしとした。知識だけでなく、その運用力が求められる出題が増加したが、総体としては標準的な難易度であった。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	地球 A-地球の自転と内部構造 B-地震と断層	17 点	資料の読み取りを中心とした出題であり、知識だけでなくその知識の運用力を求められる出題であった。実際に教科書に記載された探究活動などの実習に取り組んだことのある生徒には比較的取り組み易い出題であった。
第 2 問	地質と岩石 A-地質調査 B-地史 C-地層と岩石	27 点	例年同様に取り組みやすい問題であった。知識を問う問題を中心に出題されており、特に問題なく解答できたと思われる。昨年に引き続き出題された地質図に関しても基本的な地質構造を扱っており容易に取り組めたであろう。
第 3 問	大気と海洋 A-地球型惑星の大気 B-海水の水平運動	17 点	A は会話文を通じて知識を問う問題であったが、比較的取り組み易かったと思われる。B に関しては知識を用いて状況を図示することが求められる出題であり、日ごろから現象などを具体的に図示することを心掛けていれば容易に取り組めたであろう。
第 4 問	宇宙 A-天体とその進化 B-銀河系	27 点	宇宙に関する知識問題が中心となっており、天文学の用語を正確に理解しているかが問われる問題であった。また合わせて出題された計算問題は、公式を知っていれば容易に取り組める問題であった。
第 5 問 選択	地球 A-重力 B-ケイ酸塩鉱物	12 点	全体的に基礎的な知識を問う問題であった。会話が題材となる問題が出題されたが、単に知識を問うだけのものであり、特に問題なく解答できたと思われる。
第 6 問 選択	水の循環と海洋 A-地球表層水とその輸送量 B-海洋の構造	12 点	水の循環に関する基本的な知識を問う出題であった。受験生誰もが目にしたことがある図を使用しており、問題の意図も含めて抵抗なく解答できたであろう。